

白石倉庫の太宰榮一社長が新会長に就任

『SOKO goes on!!』を新スローガンに



太宰新会長

倉庫業青年経営者協議会（倉青協）は12日、総会・全体会を開いた。曾根和光前会長（ダイワコーポレーション）に代わり、新会長に太宰榮一氏（白石倉庫）が就任。

副会長には、兼元邦浩氏（富士倉庫運輸）、藤尾憲弘氏（神明倉庫）、野口英徳氏（野口倉庫）、高取亮太氏（高取ロジステイクス）が就いた。太宰新体制では、『SOKO goes on!!』をスローガンとし、『Talk About SOKO, More Deeply!!』をサブテーマに掲げて活動を展開。広報委員会を新設し、倉青協のOB団体である日本倉庫経営者倶楽部、国土交通省、日本倉庫協会、物流倉庫振興推進議員連盟、トラック協会や冷蔵倉庫協会等の関連外部団体との意見交換、情報発信を開始する。



活発な組織を継続

曾根氏は2年間の任期を振り返り「会長を引き受けた時は事務局の運営や150人の経営者をまとめることに不安もあった」とし、会長をサポートした副会長、常任幹事に謝辞を述べた。また、「醍

醐（正明）会長（醍醐倉庫）の時代から全体会の参加人数が70人を超えることが一般化した。が、常任幹事、執行部の努力の賜物」と語った。

曾根氏からバトンを受けた太宰氏は「倉青協は人生の財産」とした上で、東日本大震災時の会員からの各種支援について「今でもあの時のことを思うと目頭が熱くなる」と話した。震災から2年後に次期会長の打診があったが復興途上のため断った経緯を説明し「（代わりに会長を）受けてくれた曾根さんの男気に感謝した。年間10回程度の会合がある活発な組織になっており、その流れを継続していきたい」と意欲を見せた。

スローガンについては「倉庫業の未来は先細

りする」といった見方がある中で、「倉庫業が日本の経済にとって不可欠」という認識をもって、「倉庫業をもっと勉強し、誇りを持つ会にしたい」という趣旨で策定した。全体会ではテーマ別に議論する「分科会制度」を復活させ、会員が自ら発言、発信できる機会をつくり、「毎回何か持ち帰れる」ような参加型の全体会運営を目指す。

来賓の国交省総合政策局物流政策課物流産業室の坂巻健太大臣官房参事官は、交通政策審議会交通体系分科会に「物流部会」を新設したことを説明した上で、倉青協執行部へのヒアリングを考えているとし、「倉庫業をアピールする良い機会」と強調。日倉協の富取善彦理事長は、倉青協の活動テーマに触れ「まずは話すところから始まる。ダイブプリーにトークアバウトしていきたい」と話した。

全体会終了後、講演会が開催され、島根県神社庁参与で万九千社・立虫神社宮司の錦田剛志氏が「伊勢神宮と出雲大社へ御遷宮という佳節に、経営者が学ぶべき事ども」をテーマに講演。御遷宮について「理想的な原初・原点に帰することで永遠のいのち、連続するいのちを次世代に継承する一大祭儀」と説明し、持続可能な観点では「始まりに理想があり、企業経営者が創業の理念に立ち返ること」の重要性を強調した。